

横浜市環境管理計画の主な横浜市環境目標と平成18年度達成状況

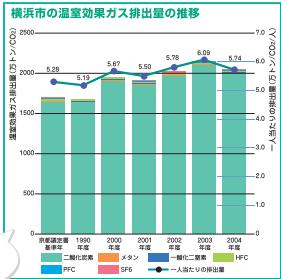
横浜市の環境対策

地球環境

地球温暖化対策の推進

- エネルギーの合理的、効率的利用がはかられ、省エネルギー型のライフスタイルが実践されている。
- 新エネルギーの導入が推進されている。

平成22(2010)年度の一人当たりの
温室効果ガス排出量は、基準年度である
平成19(1990)年度の排出量比で90%以上
削減されている。(目標: 4,561 CO₂/人)



自然環境

緑と水に ふれあえる 街づくりの推進

- 現在の緑の総量を確保する。

- 地下水のかん養が行われ、河川や水路に
豊かな水が確保されている。
- うるおいとふれあいのある水辺空間の
整備が進められている。

- 平成18年「横浜市緑の基本計画」「横浜市水環境計画」「土壌環境マスタークリアランス計画」では緑地率・水質や河川に開けたグリーンなどの目標を定められた。水・緑環境の結果を示す指標として「水緑率」を使用しています。



推進

生物生息空間の 保全・創造

- まとわりとつながりのある緑地や水辺地が確保され、身近な動植物とふれあえる環境づくりが進められている。

都市環境

少負荷型 都市づくりの推進

- 環境への負荷が低減された都市の形成や都市交通体系、港湾環境の整備が進められている。

推進

良好な都市景観の 保全・創造

- 美しい景観と歴史が息づく、文化の香り高い快適な街が形成されている。

推進

環境意識の向上と環境教育の推進

環境教育及び 環境学習の促進

- 環境教育のより一層の充実が図られるとともに、環境学習が全市的な規模で展開されている。

推進

市民・事業者の 環境活動の促進

- より多くの市民が環境への心を持ち、様々な環境保全活動が行われている。
- より多くの事業者が環境に配慮した事業活動を含み、地域での環境保全活動に関する社会貢献活動が行われている。

推進

市役所の環境保全に向けた 自主的な取組の推進

- 市及び市の機関機関全体で環境保全への取組が実施されている。

推進

環境分野における 国際的連携の推進

- 市・市民・事業者がそれぞれの立場から、環境分野における国際的な情報交換・交流に参加している。

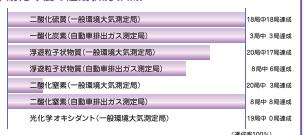
推進

生活環境

大気環境の 保全

- <目標>
●市民が清浄な大気の中で、健康で快適に暮らしている。

平成18年度の達成状況(大気)

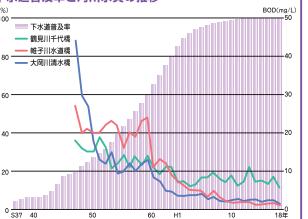


公害(生活環境)対策の推進

水環境の保全

- <目標>
●魚や様々な生き物が游める川や海で、釣りや水遊び、水辺の散策等市民がふれて楽しんでいる。

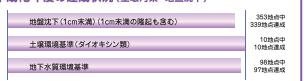
下水道普及率と河川水質の推移



土壤汚染・ 地盤沈下対策の 推進

- <目標>
●地盤沈下や土壌・地下水汚染がなく、きれいないわき水が見られるなど、安定した地盤環境のもとで暮らしている。

平成18年度の達成状況(土壤汚染・地盤沈下)



騒音・振動対策の推進

有害化学物質対策の推進

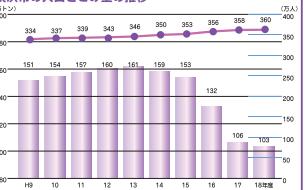
- <目標>
●市民が、振動による不快感がなく、静かな音環境の中で快適に過ごしている。
- <目標>
●有害化学物質による環境汚染が未然に防止されている。

資源循環型 まちづくりの 形成

一般廃棄物の 発生抑制・ 資源化・資源化、 適正処理の推進

- <目標>
●この減量化・資源化を主眼にいた
処理システムが実現されている。
●市民の日常生活の中で、みの減量化・
資源化が実践できている。
●市資源・循環型の企業行動が定着して
いる。

横浜市の人口とごみ量の推移



※横浜市3プロランの目標である「平成22年度のごみ量を平成13年度実績に対し30%削減」を
10年間かけて実現して平成22年度まで達成することができました。そこで、循環型社会の実現に
向けて、資源循環型まちづくりの実現を目指すために、資源循環型まちづくりの実現に向けた
あらゆるごみ量を104t(35%削減)といううらに高い目標に掲げることとしました。